

## 第2節 社 会

### 第1 本資料の活用について

#### 1 作成の基本的な考え方

本資料は、「中学校学習指導要領」及び「埼玉県中学校教育課程編成要領」・「教育課程指導資料」の趣旨を踏まえるとともに、目標に準拠した評価を基本に据え、「生きる力」の育成を目指し、確かな学力を身に付けさせるための新しい学習評価の在り方について、学校がどのように取り組めばよいかを考える際の参考となるように、その事例を示したものである。

ここでは、まず、評価の観点が変わったことを踏まえて、学習評価の改善点と評価に際しての留意点を掲載した。また、教科目標及び教科・分野別の評価の観点とその趣旨について、表に整理して示した。

次に、具体的な指導と評価をどのように行えばよいかを考えるために、評価規準作成までの流れを事例を通して示し、各分野の評価規準について挙げた。ただし、ここでは各分野の評価規準を網羅的には掲載していない。各分野の評価規準については、国立教育政策研究所作成の『評価規準の作成のための参考資料（中学校）第2編 第2章 社会』（平成22年11月）を参照されたい。

続いて、具体的な学習評価の事例を分野ごとに示した。ここでは、地理的分野と歴史的分野で単元計画とその学習評価の実際を、公民的分野で1単位時間における学習評価の実際を取り上げた。

最後に、評価方法、評価の累積、評定について、第2学年の事例を挙げて、具体的に示した。

#### 2 取り上げた内容

##### 第1 本資料の活用について

##### 第2 社会科における学習評価

- 1 学習評価の改善点
- 2 学習評価に際しての留意点
- 3 各分野の評価規準設定例 〈地理的分野〉〈歴史的分野〉〈公民的分野〉

##### 第3 指導と評価の実際

- 1 評価規準作成までの流れ
- 2 単元の評価規準の作成と本時の学習評価
- 3 評価の事例  
〈地理的分野〉「資料活用の技能」と「社会的な思考・判断・表現」に視点を当てた事例  
〈歴史的分野〉生徒作品や自己評価に視点を当てた事例  
〈公民的分野〉1時間の授業の評価と指導の手立てに視点を当てた事例
- 4 学期末・学年末の評価に向けて

#### 3 本資料の活用にあたって

実際の学習評価にあたっては、多様な評価方法を工夫して生徒の学習状況を把握することが望まれる。各学校で学習評価の在り方や評価計画の作成方法、評定への総括の仕方などの共通理解を図った上で、社会科としての学習評価の方法、場面、時期などを工夫し、効果的・効率的な評価を行うことが重要である。

##### (1) 目標に準拠した評価の一層の推進

観点別学習状況の評価を行うためには、各分野において単元ごとに目標に照らして評価規準を作成する必要がある。

各分野における指導計画・評価計画作成にあたっては、本資料を参考にして、学校や地域の実態に合わせた指導計画を作成するとともに、各校の指導計画に則した評価計画を作成することが大切である。

##### (2) 個々の生徒の学習状況を的確に把握し、伸ばすための学習評価の一層の推進

学習評価は、生徒の学習状況を把握し、よい点や可能性を見だし、伸ばすために行われるものである。そのためには、学習の展開に則して具体的な評価方法を設定し、学習活動や学習内容との関連を図り、指導と評価が一体のものとなるよう工夫し、生徒一人一人の資質や能力をより確かなにはぐくむという視点を一層重視することが大切である。

上述のように、本資料は、中学校社会科の指導計画・評価計画を作成し、社会科学習における指導及び評価を行う際の参考資料として示したものである。各学校においては、本資料の趣旨を理解した上で、学校や地域の実態に合わせて、さらに学習評価の工夫・改善を図ってほしい。その際、学習指導要領及び解説、教育課程編成要領、教育課程指導資料、国立教育政策研究所作成の評価に関する参考資料等を併せて活用願いたい。

第2 社会科における学習評価

1 学習評価の改善点

社会科にかかわる評価の観点の改善点は、「思考・判断」と「技能・表現」の両観点の変更であり、これは学校教育法第30条における学力の3要素と評価の4観点の整合性を図ったものである。（表1） 従来の学習指導要領においても「思考・判断」と「表現」との関連性を意識して評価を行うことを求めていたが、思考・判断したことを、その過程や内容を適切に表現する活動と一体的に評価することを明確にしたのである。資料を集めて読み取ったことを書いたり、グラフに表したりすることは、「技能」であり、それを解釈、判断して、考察をまとめることは「思考・判断・表現」で評価することになる。

2 学習評価に際しての留意点

(1) 効果的・効率的な評価

学習評価の妥当性、信頼性の向上を図るとともに、教師の負担感を軽減するためにも、以下に留意して効果的・効率的な学習評価を推進することが必要である。

ア 学習のねらいや学習内容を明確にした上で指導と評価の一体化を図るとともに、各単元・各時間の評価の観点を焦点化して評価する。

イ 指導と評価は常に一体で、すべての評価は指導に生かすためのものであるが、評価をすべて記録に残す必要はない。一人一人の学習状況を把握し、すぐに指導に生かすような評価の場面と、単元目標と照らして重点的に結果を記録に残す評価の場面とを区別して表示することも考えられる。それらを評価計画の中に適切に設定することで、効果的・効率的な評価とするよう工夫する。（表2）

(2) 目標に準拠した評価

目標に準拠した評価とは、おおむね満足できる状況（準拠すべき目標）を明確にして、その規準に達しているかどうかで判断するものである。きめ細かな学習指導の充実と生徒一人一人の学習内容の定着を図るためにも、社会科における生徒の学習状況を分析的にとらえる観点別学習状況の評価を進めるに当たっては、目標に準拠した評価を着実に実施したい。そして、それを蓄積し、総括的にとらえて、評定に結び付けていく。

(3) 言語活動の充実

学習指導要領は、知識・技能を習得させ、それらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を生徒に身に付けさせることを目指している。そのための手段として問題解決型の学習を行い、その際に言語活動を重視する。

社会科の言語活動は、例えば、レポートの作成において、視点を明確にして事象の差異や共通点を報告すること、事象を概念や法則などを用いて解釈し説明すること、情報を分析して論述すること、議論などを通して互いに考えを伝え合い自らの考えや集団の考えを発展させることなどが挙げられる。そのため、学習の成果としての生徒の作品は、できばえを評価するのではなく、記述されている内容やそれを説明する発言などの言語による表現を中心に評価することになる。

表1 (下記の4観点に優位性や順序性はない)

| 学力の3要素                       | 従来の観点          | 新しい観点              |
|------------------------------|----------------|--------------------|
| 基礎的・基本的な知識・技能（習得）            | 知識・理解<br>技能・表現 | 知識・理解<br><b>技能</b> |
| 課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力（活用） | 思考・判断          | <b>思考・判断・表現</b>    |
| 主体的に学習に取り組む態度（態度）            | 関心・意欲・態度       | 関心・意欲・態度           |

表2

|          |                                                                                     |
|----------|-------------------------------------------------------------------------------------|
| 指導に生かす評価 | 主として生徒の学習の改善に生かす評価である。例えば、授業の評価面で「努力を要する」状況と判断した生徒に、その場で助言し手立てを示すなど、生徒の指導に重点を置くもの。  |
| 記録に残す評価  | 結果を記録に残し、観点別学習状況の評価へつなげる評価である。例えば、単元の中で重要なワークシートの記述や活動の観察などを通して、すべての生徒を評価し、記録に残すもの。 |

社会科の教科目標及び教科・分野別の評価の観点とその趣旨

\* 下線部は、主な改善された箇所を示す。

|       |                                                                                                                          |                                                                                             |                                                                     |                                                                                 |
|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|
| 目標    | 広い視野に立って、社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培い、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。 |                                                                                             |                                                                     |                                                                                 |
| 観点    | 社会的事象への関心・意欲・態度                                                                                                          | 社会的な思考・判断・表現                                                                                | 資料活用の技能                                                             | 社会的事象についての知識・理解                                                                 |
| 中学校社会 | 社会的事象に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、よりよい社会を考え自覚をもって責任を果たそうとする。                                                                     | 社会的事象から課題を見だし、社会的事象の意義や特色、相互の関連を多面的・多角的に考察し、社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。             | 社会的事象に関する諸資料から有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。                             | 社会的事象の意義や特色、相互の関連を理解し、その知識を身に付けている。                                             |
| 地理的分野 | 地理的事象に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、広い視野に立って我が国の国土及び世界の諸地域の特色について認識を養おうとする。                                                        | 地理的事象から課題を見だし、日本や世界の地域的特色を地域の規模に応じて環境条件や人々の営みなどと関連付けて多面的・多角的に考察し、公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。 | 地図や統計、映像など地域に関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。       | 日本や世界の諸地域について、その地域構成や地域的特色、地域の課題などを理解し、その知識を身に付けている。                            |
| 歴史的分野 | 歴史的事象に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、広い視野に立って我が国の伝統と文化について考え国民としての自覚をもとうとする。                                                        | 歴史的事象から課題を見だし、我が国の歴史の大きな流れや各時代の特色などを多面的・多角的に考察し、公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。                  | 年表や歴史地図、映像など歴史に関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。     | 我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解し、その知識を身に付けている。                            |
| 公民的分野 | 現代の社会的事象に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、広い視野に立ってよりよい社会を考え公民としての自覚をもって責任を果たそうとする。                                                    | 現代の社会的事象から課題を見だし、社会的事象の意義や役割、相互の関連などを多面的・多角的に考察し、様々な考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。       | 統計や新聞、映像など現代の社会的事象に関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 | 現代社会についての見方や考え方の基礎、現代の社会生活及び政治や経済の基本的な考え方、社会的事象の意義や役割、相互の関連などを理解し、その知識を身に付けている。 |

### 3 各分野の評価規準設定例

各分野の評価規準については、紙面の都合上、評価規準の例を網羅的には掲載せず、内容のまとまりごとに1例ずつ示した。これを参考に、学校や地域の実態に合わせて各学校で作成したり、同一市町村内の学校で共同して作成したりしてもらいたい。

#### <地理的分野>

##### 1 地理的分野の目標

- (1) 日本や世界の地理的事象に対する関心を高め、広い視野に立って我が国の国土及び世界の諸地域の地域的特色を考察し理解させ、地理的な見方や考え方の基礎を培い、我が国の国土及び世界の諸地域に関する地理的認識を養う。
- (2) 日本や世界の地域の諸事象を位置や空間的な広がりとかかわり度ととらえ、それを地域の規模に応じて環境条件や人間の営みなどと関連付けて考察し、地域的特色や地域の課題をとらえさせる。
- (3) 大小様々な地域から成り立っている日本や世界の諸地域を比較し関連付けて考察し、それらの地域は相互に関係し合っていることや各地域の特色には地方的特殊性と一般的共通性があること、また、それらは諸条件の変化などに伴って変容していることを理解させる。
- (4) 地域調査など具体的な活動を通して地理的事象に対する関心を高め、様々な資料を適切に選択、活用して地理的事象を多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに適切に表現する能力や態度を育てる。

##### 2 地理的分野の評価の観点の趣旨（再掲）

（\*下線部は、主な改善された箇所を示す。ただし、削除部分は除く。）

| 社会的事象への関心・意欲・態度                                                   | 社会的思考・判断・表現                                                                                 | 資料活用                                                          | 社会的事象についての知識・理解                                      |
|-------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------|
| 地理的事象に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、広い視野に立って我が国の国土及び世界の諸地域の特色について認識を養おうとする。 | 地理的事象から課題を見だし、日本や世界の地域的特色を地域の規模に応じて環境条件や人々の営みなどと関連付けて多面的・多角的に考察し、公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。 | 地図や統計、映像など地域に関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 | 日本や世界の諸地域について、その地域構成や地域的特色、地域の課題などを理解し、その知識を身に付けている。 |

### 3 学習指導要領の内容、内容のまとまりごとの評価規準及び単元の評価規準（設定例）（一部）

#### 「(1)ウ 世界の諸地域」

| 学習指導要領の内容                                                                                                                                                                                       | 評価の観点                   | 内容のまとまりごとの評価規準（設定例）                                                                                                                                 | 小単元の評価規準（設定例）<br>【ヨーロッパ】                                                                                           |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 世界の諸地域について、<br>以下の(ア)から(カ)の各州に<br>暮らす人々の生活の様子<br>を的確に把握できる地理<br>的事象を取り上げ、それ<br>を基に主題を設けて、そ<br>れぞれの州の地域的特色<br>を理解させる。<br>(ア) アジア<br>(イ) ヨーロッパ<br>(ウ) アフリカ<br>(エ) 北アメリカ<br>(オ) 南アメリカ<br>(カ) オセアニア | 社会的事象<br>への関心・<br>意欲・態度 | ・アジア、ヨーロッパ、アフリカ、北アメリカ、南アメリカ、オセアニアの各州に暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる主題を基に、世界の諸地域の地域的特色に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。                                         | ・ヨーロッパ州に暮らす人々の生活の様子を的確に把握できるEUの発展と地域間格差の主題を基に、ヨーロッパ州の地域的特色に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。                         |
|                                                                                                                                                                                                 | 社会的な思考・判断・表現            | ・アジア州の地域的特色を、そこに暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる主題を基に多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。<br>※次の地域についても同様<br>・ヨーロッパ州      ・アフリカ州      ・北アメリカ州<br>・南アメリカ州      ・オセアニア州 | ・ヨーロッパ州の地域的特色を、そこに暮らす人々の生活の様子を的確に把握できるEUの発展と地域間格差の主題を基に多面的・多角的に考察し、その過程や結果をワークシートなどに適切に表現している。                     |
|                                                                                                                                                                                                 | 資料活用の技能                 | ・世界の諸地域の地域的特色に関する様々な資料を収集している。<br>・収集した資料から、世界の諸地域の地域的特色について有用な情報を適切に選択している。<br>・適切に選択した情報を基に、世界の諸地域の地域的特色について読み取ったり図表などにまとめたりしている。                 | ・ヨーロッパ州の地域的特色に関する様々な資料をから、ヨーロッパ州の地域的特色について有用な情報を適切に選択している。<br>・適切に選択した情報を基に、ヨーロッパ州の地域的特色について読み取ったり、図表などにまとめたりしている。 |
|                                                                                                                                                                                                 | 社会的事象<br>についての<br>知識・理解 | ・アジア州について、そこに暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる主題を基に地域的特色を理解し、その知識を身に付けている。<br>※次の地域についても同様<br>・ヨーロッパ州      ・アフリカ州      ・北アメリカ州<br>・南アメリカ州      ・オセアニア州           | ・ヨーロッパ州について、そこに暮らす人々の生活の様子を的確に把握できるEUの発展と地域間格差の主題を基に地域的特色を理解し、その知識を身に付けている。                                        |

#### <歴史的分野>

##### 1 歴史的分野の目標

- (1) 歴史的事象に対する関心を高め、我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特徴を踏まえて理解させ、それを通して我が国の伝統と文化の特徴を広い視野に立って考えさせるとともに、我が国の歴史に対する愛情を深め、国民としての自覚を育てる。
- (2) 国家・社会及び文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を、その時代や地域との関連において理解させ、尊重する態度を育てる。
- (3) 歴史に見られる国際関係や文化交流のあらましを理解させ、我が国と諸外国の歴史や文化が相互に深くかかわっていることを考えさせるとともに、他民族の文化、生活などに関心をもち、国際協調の精神を養う。
- (4) 身近な地域の歴史や具体的な事象の学習を通して歴史に対する興味・関心を高め、様々な資料を活用して歴史的事象を多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに適切に表現する能力と態度を育てる。

## 2 歴史的分野の評価の観点の趣旨（再掲）

（\*下線部は、主な改善された箇所を示す。ただし、削除部分は除く。）

| 社会的事象への関心・意欲・態度                                                   | 社会的思考・判断・表現                                                                 | 資料活用 の 技能                                                       | 社会的事象についての知識・理解                                      |
|-------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------|
| 歴史的な事象に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、広い視野に立って我が国の伝統と文化について考え国民としての自覚をもととする。 | 歴史的な事象から課題を見だし、我が国の歴史の大きな流れや各時代の特色などを多面的・多角的に考察し、公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。 | 年表や歴史地図、映像など歴史に関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 | 我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解し、その知識を身に付けている。 |

## 3 学習指導要領の内容、内容のまとまりごとの評価規準及び単元の評価規準（設定例）（一部）

「(5) 近代の日本と世界」

| 学習指導要領の内容                                                                                                                          | 評価の観点           | 内容のまとまりごとの評価規準（設定例）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 中単元の評価規準（設定例）<br>【立憲国家の成立と条約改正】                                            |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|
| ア 欧米諸国における市民革命や産業革命、アジア諸国の動きなどを通して、欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解させる。                                                                | 社会的事象への関心・意欲・態度 | ・欧米諸国における近代社会の成立とアジアへの進出、明治維新による近代国家の形成と我が国の国際的地位の向上、近代産業の発展と近代文化の形成、国際平和への努力と二度の世界大戦による惨禍など、近代の歴史的事象に対する関心を高め、意欲的に追究して近代の特色をとらえようとし、国際協調の大切さを考えようとする。                                                                                                                                                                                            | ・近代の歴史的事象に対する関心を高め、この時代に活躍した人物についてインターネットや文献で調べ、意欲的に追究しようとする。              |
| イ 開国とその影響、富国強兵・殖産興業政策、文明開化などを通して、新政府による改革の特色を考えさせ、明治維新によって近代国家の基礎が整えられて、人々の生活が大きく変化したことを理解させる。                                     | 社会的な思考・判断・表現    | ・欧米諸国における市民革命や産業革命、アジア諸国の動きなどについて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。<br>・開国とその影響、富国強兵・殖産興業政策、文明開化や新政府による改革の特色について多面的・多角的に考察し、公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。<br>・自由民権運動、大日本帝国憲法の制定、日清・日露戦争、条約改正などについて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。<br>・我が国の産業革命、この時期の国民生活の変化、学問・教育・科学・芸術の発展などについて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。                                            | ・日本の国際的地位の向上の過程を、立憲国家の成立から条約改正までの歴史的事象についてその経過や因果関係を多面的・多角的に考察し、適切に表現している。 |
| ウ 自由民権運動、大日本帝国憲法の制定、日清・日露戦争、条約改正などを通して、立憲制の国家が成立して議会政治が始まるとともに、我が国の国際的地位が向上したことを理解させる。                                             | 資料活用 の 技能       | ・欧米諸国における市民革命や産業革命、アジア諸国の動きなどに関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。<br>・開国とその影響、富国強兵・殖産興業政策、文明開化などに関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。<br>・自由民権運動、大日本帝国憲法の制定、日清・日露戦争、条約改正などに関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。<br>・我が国の産業革命、この時期の国民生活の変化、学問・教育・科学・芸術の発展などに関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。  | ・立憲国家の成立や条約改正などに関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、新聞形式のレポートを作成したり、年表などにまとめたりしている。 |
| エ 我が国の産業革命、この時期の国民生活の変化、学問・教育・科学・芸術の発展などを通して、我が国で近代産業が発展し、近代文化が形成されたことを理解させる。                                                      |                 | ・第一次世界大戦の背景とその影響、民族運動の高まりと国際協調の動き、我が国の国民の政治的自覚の高まりと文化の大衆化などについて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。<br>・経済の世界的な混乱と社会問題の発生、昭和初期から第二次世界大戦の終結までの我が国の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、欧米諸国の動き、戦時下の国民の生活などについて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。                                                                                                                           |                                                                            |
| オ 第一次世界大戦の背景とその影響、民族運動の高まりと国際協調の動き、我が国の国民の政治的自覚の高まりと文化の大衆化などを通して、第一次世界大戦前後の国際情勢及び我が国の動きと、大戦後に国際平和への努力がなされたことを理解させる。                |                 | ・我が国の産業革命、この時期の国民生活の変化、学問・教育・科学・芸術の発展などに関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。<br>・第一次世界大戦の背景とその影響、民族運動の高まりと国際協調の動き、我が国の国民の政治的自覚の高まりと文化の大衆化などに関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。<br>・経済の世界的な混乱と社会問題の発生、昭和初期から第二次世界大戦の終結までの我が国の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、欧米諸国の動き、戦時下の国民の生活などに関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 |                                                                            |
| カ 経済の世界的な混乱と社会問題の発生、昭和初期から第二次世界大戦の終結までの我が国の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、欧米諸国の動き、戦時下の国民の生活などを通して、軍部の台頭から戦争までの経過と、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解させる。 | 社会的事象についての知識・理解 | ・欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解し、その知識を身に付けている。<br>・明治維新によって近代国家の基礎が整えられて、人々の生活が大きく変化したことを理解し、その知識を身に付けている。<br>・立憲制の国家が成立して議会政治が始まるとともに、我が国の国際的地位が向上したことを理解し、その知識を身に付けている。<br>・我が国で近代産業が発展し、近代文化が形成されたことを理解し、その知識を身に付けている。<br>・第一次世界大戦前後の国際情勢及び我が国の動きと、大戦後に国際平和への努力がなされたことを理解し、その知識を身に付けている。<br>・軍部の台頭から戦争までの経過と、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解し、その知識を身に付けている。 | ・立憲国家の成立から日清・日露戦争を経て条約改正に至るまでの過程の中で、我が国の国際的地位が向上したことを理解し、その知識を身に付けている。     |

## ＜公民的分野＞

### 1 公民的分野の目標

- (1) 個人の尊厳と人権の尊重の意義、特に自由・権利と責任・義務の関係を広い視野から正しく認識させ、民主主義に関する理解を深めるとともに、国民主権を担う公民として必要な基礎的教養を培う。
- (2) 民主政治の意義、国民の生活の向上と経済活動とのかかわり及び現代の社会生活などについて、個人と社会とのかかわりを中心に理解を深め、現代社会についての見方や考え方の基礎を養うとともに、社会の諸問題に着目させ、自ら考えようとする態度を育てる。
- (3) 国際的な相互依存関係の深まりの中で、世界平和の実現と人類の福祉の増大のために、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことが重要であることを認識させるとともに、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることが大切であることを自覚させる。
- (4) 現代の社会的事象に対する関心を高め、様々な資料を適切に収集、選択して多面的・多角的に考察し、事実を正確にとらえ、公正に判断するとともに適切に表現する能力と態度を育てる。

### 2 公民的分野の評価の観点の趣旨（再掲）

（＊下線部分は、主な改善された箇所を示す。ただし、削除部分は除く。）

| 社会的事象への関心・意欲・態度                                                       | 社会的思考・判断・表現                                                                          | 資料活用の技能                                                             | 社会的事象についての知識・理解                                                                 |
|-----------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|
| 現代の社会的事象に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、広い視野に立ってよりよい社会を考え公民としての自覚をもって責任を果たそうとする。 | 現代の社会的事象から課題を見だし、社会的事象の意義や役割、相互の関連などを多面的・多角的に考察し、様々な考え方を踏まえ公正に判断してその過程や結果を適切に表現している。 | 統計や新聞、映像など現代の社会的事象に関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 | 現代社会についての見方や考え方の基礎、現代の社会生活及び政治や経済の基本的な考え方、社会的事象の意義や役割、相互の関連などを理解し、その知識を身に付けている。 |

### 3 学習指導要領の内容、内容のまとめりとごとの評価規準及び単元の評価規準（設定例）（一部）

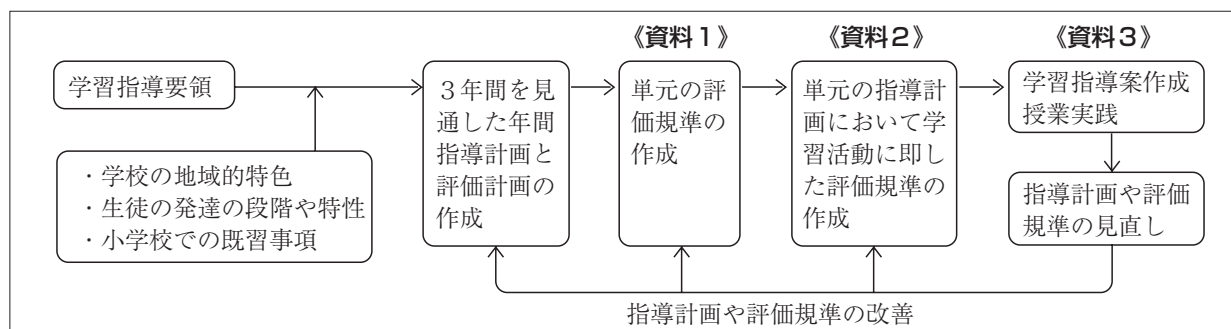
#### 〔2)イ 国民の生活と政府の役割〕

| 学習指導要領の内容                                                                                                                                                                                | 評価の観点           | 内容のまとめりとごとの評価規準（設定例）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 小単元の評価規準（設定例）<br>【政府の財政】                                                                                                                                                                                                                                             |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 国民の生活と福祉の向上を図るために、社会資本の整備、公害の防止など環境の保全、社会保障の充実、消費者の保護など、市場の働きにゆだねることが難しい諸問題に関して、国や地方公共団体が果たしている役割について考えさせる。また、財源の確保と配分という観点から財政の役割について考えさせる。その際、租税の意義と役割について考えさせるとともに、国民の納税の義務について理解させる。 | 社会的事象への関心・意欲・態度 | <ul style="list-style-type: none"> <li>国や地方公共団体の経済活動に対する関心が高まっている。</li> <li>市場の働きにゆだねることが難しい諸問題に対する国や地方公共団体の経済活動を意欲的に追究している。</li> <li>市場の働きにゆだねることが難しい諸問題に着目して、国や地方公共団体の経済活動や財政について考えようとしている。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>政府の経済活動に対する関心が高まっている。</li> <li>市場の働きにゆだねることが難しい諸問題に関して、財源の確保と配分という観点から政府の財政の役割について考えようとしている。その際、租税の意義と役割について考えようとしている。</li> </ul>                                                                                             |
|                                                                                                                                                                                          | 社会的な思考・判断・表現    | <ul style="list-style-type: none"> <li>市場の働きにゆだねることが難しい諸問題に対して国や地方公共団体が果たしている役割について多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。</li> <li>財政に関して、少子高齢社会など現代社会の特色を踏まえ、財源の確保と望ましい配分について、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に説明するなどを行っている。</li> <li>国や地方公共団体の経済活動にかかわる課題を見だし、対立と合意、効率と公正などの視点から多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。</li> </ul>                                                                                                                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>財政に関して、少子高齢社会など現代社会の特色を踏まえ、財源の確保と望ましい配分について、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に説明するなどを行っている。</li> <li>租税の意義と役割について、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に説明するなどを行っている。</li> <li>政府の財政の課題を見だし、対立と合意、効率と公正などの視点から多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。</li> </ul> |
|                                                                                                                                                                                          | 資料活用の技能         | <ul style="list-style-type: none"> <li>国や地方公共団体の経済活動に関する資料を様々な情報手段を活用して収集している。</li> <li>収集した資料の中から、市場の働きにゆだねることが難しい諸問題に対して国や地方公共団体が果たしている役割についての学習に役立つ情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                             | <ul style="list-style-type: none"> <li>政府の財政に関する資料を様々な情報手段を活用して収集している。</li> <li>収集した資料の中から、政府が果たしている財政の役割についての学習に役立つ情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。</li> </ul>                                                                                                      |
|                                                                                                                                                                                          | 社会的事象についての知識・理解 | <ul style="list-style-type: none"> <li>社会資本が多く経済活動を円滑に進めるために必要な基礎的施設として間接的に経済の発展に役立つことについて理解し、その知識を身に付けている。</li> <li>個人の生活や産業の発展に伴う公害など環境汚染や自然破壊の問題について理解するとともに、環境を保全し、積極的に人間環境の改善を図るようにすることの重要性を理解し、その知識を身に付けている。</li> <li>日本国憲法第25条の精神に基づく社会保障制度の基本的な内容を理解するとともに、一層の充実を図る必要があることを理解し、その知識を身に付けている。</li> <li>国や地方公共団体は、消費者の権利の尊重及びその自立の支援のために消費者政策を推進する役割を担っていることを理解し、その知識を身に付けている。</li> <li>国民が納税の義務を果たすことの大切さを、租税の意義と役割の学習を通して理解し、その知識を身に付けている。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>市場の働きにゆだねることが難しい諸問題に関して、財源の確保と配分という観点から政府の財政の役割について理解し、その知識を身に付けている。</li> <li>租税の意義と役割について理解し、その知識を身に付けている。</li> <li>国民が納税の義務を果たすことの大切さを、租税の意義と役割の学習を通して理解し、その知識を身に付けている。</li> </ul>                                          |

### 第3 指導と評価の実践

#### 1 評価規準作成までの流れ

第1に、学習指導要領の目標と内容をしっかりと理解する。第2に、3分野を関連付けながら、各学校の地域的特色、生徒の発達の段階や特性などを踏まえて単元の目標を設定し、3年間を見通した年間指導計画と評価計画を作成する。第3に、単元の目標に則して観点別に評価規準を設定し、単元ごとに指導計画と評価規準を作成する。第4に、1時間ごとにねらいを明確にして、生徒にどのような力を身に付けさせたいのか、そのためにどのような取組や活動をさせるのかなどを具体化し、評価の場面や方法を明らかにする。その際、1時間における評価は1観点（多くても2観点程度）とし、単元を通じて、効果的・効率的に評価できるようにする。また、PDCAサイクルを活用して、学習評価を生徒の指導に生かすとともに、指導計画、評価規準、評価方法等の改善を図り、学校や地域、生徒の実態にあったものになるよう努めていく。



#### 2 単元の評価規準の作成と本時の学習評価

《地理的分野 第2学年 「日本の様々な地域」  
－世界と比べた日本の地域的特色－》における事例》

##### (1) 内容のまとまり（中単元）の評価規準

| ねらい                                                   | 内 容                                                                                               | 評価の観点           | 評価規準に盛り込むべき事項                                                                                  | 内容のまとまりごとの評価規準の設定例                                                                                                                                        |
|-------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 世界的視野や日本全体の視野から見た日本の地域的特色を取り上げ、我が国の国土の特色を様々な面から大観させる。 | (ア)世界的視野から日本の地形や気候の特色、海洋に囲まれた日本の国土の特色を理解させるとともに、国内の地形や気候の特色、自然災害と防災への努力を取り上げ、日本の自然環境に関する特色を大観させる。 | 社会的事象への関心・意欲・態度 | 世界と比べた日本の地域的特色に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。                                                 | ・世界的視野や日本全体の視野から見た自然環境、人口、資源・エネルギーと産業、地域間の結び付きを基に、世界と比べた日本の地域的特色に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。                                                          |
|                                                       | (イ)世界的視野から日本の人口と人口密度、少子高齢化の課題を理解させるとともに、国内の人口分布、過疎・過密問題を取り上げ、日本の人口に関する特色を大観させる。                   | 社会的な思考・判断・表現    | 世界と比べた日本の地域的特色を、世界的視野や日本全体の視野から見た自然環境、人口、資源・エネルギーと産業、地域間の結び付きを基に多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 | ・世界と比べた日本の地域的特色を、世界的視野や日本全体の視野から見た自然環境を基に多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。<br>・世界と比べた日本の地域的特色を、世界的視野や日本全体の視野から見た人口を基に多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。<br>(以下略) |
|                                                       | (ウ)世界的視野から日本の資源・エネルギーの消費の現状を理解させるとともに国内の産業の動向、環境やエネルギーに関する課題を取り上げ、日本の資源・エネルギーと産業に関する特色を大観させる。     | 資料活用の技能         | 世界と比べた日本の地域的特色に関する様々な資料から、有用な情報を適切に選択し、読み取ったり表などにまとめている。                                       | ・世界と比べた日本の地域的特色に関する様々な資料から、世界と比べた日本の地域的特色について有用な情報を適切に選択している。<br>・適切に選択した情報を基に、世界と比べた日本の地域的特色について読み取ったり図表などにまとめている。                                       |
|                                                       | (エ)世界的視野から日本と世界との交通・通信網の発達の様子や物流を理解させるとともに、国内の交通、通信網の整備状況を取り上げ、日本と世界の結び付きや国内各地の結び付きの特色を大観させる。     | 社会的事象についての知識・理解 | 世界と比べた日本の地域的特色について、世界的視野や日本全体の視野から見た自然環境、人口、資源・エネルギーと産業、地域間の結び付きを理解し、その知識を身に付けている。             | ・世界と比べた日本の地域的特色について、世界的視野や日本全体の視野から見た自然環境を理解し、その知識を身に付けている。<br>・世界と比べた日本の地域的特色について、世界的視野や日本全体の視野から見た人口を理解し、その知識を身に付けている。<br>(以下略)                         |

##### (2) 小単元（ア 自然環境から見た日本）の評価計画

###### ア 評価規準 《資料1》

| 社会的事象への関心・意欲・態度                                                    | 社会的な思考・判断・表現                                                           | 資料活用の技能                                                                    | 社会的事象についての知識・理解                                            |
|--------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------|
| 世界と比べた日本の自然環境及び日本全体の視野から見た地域的な自然環境の特色に対する関心を高め、意欲的に追究し、とらえようとしている。 | 世界と比べた日本の地域的特色を、世界的視野や日本全体の視野から見た自然環境を基に多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 | 世界や日本の自然環境に関する地図や統計その他の資料を収集し、学習に役立つ情報を選択して読み取ったり、グラフ化や地図に表したりして適切に活用している。 | 世界と比べた日本の地域的特色について、世界的視野や日本全体の視野から見た自然環境を理解し、その知識を身に付けている。 |

イ 評価計画 《資料2》

|     | 主な学習内容                                                                                     | 学習活動                                                                                                                 | 小単元の評価規準を基に、授業の場面に合わせた評価規準を設定        | 学習活動に即した評価規準                                                                                                                               |
|-----|--------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1時 | <b>【世界の地形】</b><br>○環太平洋造山帯とアルプス＝ヒマラヤ造山帯<br>○造山帯→不安定な地域で火山活動が活発<br>○平原や高原→安定した地域で風化や浸食により平坦 | ・世界地図や衛星写真を見て、山脈が連なる地域と平原や高原の広がる地域を探し白地図に記入する。<br>・資料から造山帯には火山が多いことを確認し、そのよさと問題点を考える。<br>・平原や高原の形成過程について知り、その特色を考える。 |                                      | ・山脈が連なる地域と平原や高原の広がる地域を意欲的に白地図に記入している。<br><b>【関心・意欲・態度】</b> （観察・白地図）                                                                        |
| 第2時 | <b>【世界の気候帯】</b><br>○熱帯、亜熱帯、温帯、乾燥帯、冷帯（亜寒帯）、寒帯<br>○気候帯の特徴、分布の特色                              | ・世界の様々な風景写真から、風景に違いが起きている理由を考える。<br>・写真の風景が、世界のどの地域に見られるかを理由を添えて考える。<br>・五つの気候帯を知り、その特徴を調べまとめる。                      |                                      | ・世界の風景の違いを気候帯と結び付けて考えている。<br><b>【思考・判断・表現】</b> （ワークシート）<br>・五つの気候帯の特徴をまとめ、その知識を身に付けている。<br><b>【知識・理解】</b> （ワークシート）                         |
| 第3時 | <b>【日本の地形】</b><br>○環太平洋造山帯に属し、山がちな国土<br>○平野は、小規模な堆積平野で、臨海部に点在。世界と比較して狭い。河川は、世界と比較して短く急流。   | ・地図帳を見て、日本の地形の特色を発表する。<br>・教科書、資料集、地図帳等を活用し、「日本の地形」と題した図にまとめる。<br><b>毎時間、4観点すべてを評価するのではなく重点化を図ること（多くても2観点程度）</b>     | <b>小単元の評価規準を基に、授業の場面に合わせた評価規準を設定</b> | ・地図帳を活用して、日本の主な山地・山脈、平野、河川を調べ、その位置を白地図にまとめている。<br><b>【技能】</b> （白地図）<br>・日本の地形の特色を世界と比較して考察し、その結果を図と文でまとめている。<br><b>【思考・判断・表現】</b> （ワークシート） |

(3) 本時の指導 《資料3》

ア 本時のねらい

日本の主な山地・山脈、平野、河川の位置をとらえさせるとともに、世界と比較して日本の地形の特色を考え、図を使ってまとめる。

イ 本時の展開

| 過程   | 学習活動と学習内容（・）                                                                                        | 指導上の留意点                                                                                                                                                                                    | 評価                                                                                                               | 手立て | （指導）                                                             | 資料等                                                     |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------|
| 導入   | ①前時までの学習内容についての教師の質問に答える。                                                                           | ・深入りせず、うまくに振り返らせる。                                                                                                                                                                         |                                                                                                                  |     |                                                                  | ・前時までに活用した資料                                            |
| 課題把握 | ②地図帳を活用し、ワークシートの中の白地図に主な山地・山脈、平野、河川を書き込み、主題図を作成する。<br><b>本時のねらいが、本時の評価につながる（目標と指導と評価の一体化）</b>       | ・グループ学習により協力して作業ができるようにする<br>・記入する山地名などは、一覧表で掲示する。                                                                                                                                         | <b>評</b> 地図帳を活用して、日本の主な山地・山脈、平野、河川で白地図にまとめている。<br>→◎作成できた生徒には、盆地を記入したり、海岸線を言う。<br>→○作成できていない生徒には、その場で実際に作業を説明する。 |     | ・示された表記方法を<br><b>【技能】</b><br>ぞったりするよう助<br>てみせて、具体的に<br>るように指示する。 | ・教科書<br>・地図帳<br>・ノート<br>・掛け図<br>・ワークシート<br>・白地図<br>・色鉛筆 |
| 展開   | ③自作の主題図と前時までに活用した地図を比較して日本の地形の特色を考える。<br>・平野は、世界と比べ小規模な堆積平野で、臨海部に点在する。<br>・河川は、世界の主な河川と比較して短く急流である。 | ・特徴を考えやすくするために、広さや長さに着目して考える。                                                                                                                                                              |                                                                                                                  |     |                                                                  |                                                         |
|      | ④主題図を基にして、資料集、地図帳等を活用しながら、日本の地形の特色について、図と文章でまとめ、発表する。<br>・ワークシートの中に「日本の地形の特色」と題した図の作成               | <b>評</b> 資料を活用して、平野、河川等を世界と比較して、日本の地形の特色を考え、図と文でまとめている。<br>→◎図と文にまとめられた生徒には、山地、河川、平野以外の地形に着目して考えるように指示する。<br>→○まとめられなかった生徒には、③の学習を補習プリントで解説し、平野と河川の特徴をつかめるようにし、見本となる図の例を示し表現の仕方をつかめるようにする。 |                                                                                                                  |     | <b>【思考・判断・表現】</b>                                                | ・ワークシート<br>・見本となる図                                      |

※ 表中の ➡ や ↓ は、単元の評価規準の設定から1単位時間の指導案の評価までの流れを示している。

3 評価の事例

「資料活用の技能」と「社会的な思考・判断・表現」に視点を当てた事例

＜地理的分野＞ 内容(1) 「世界の様々な地域」 ウ 世界の諸地域 の事例

(1) 単元名 世界の諸地域 ヨーロッパ州

(2) 本資料作成の視点（資料活用の技能と社会的な思考・判断・表現の評価）

平成22年5月、文部科学省から、社会科の新しい評価の観点とその趣旨が示された。「資料活用の技能・表現」から「資料活用の技能」に変わり、表現が削除された。ただし、地理的分野の評価の「資料活用の技能」の観点の趣旨には、「地図や統計、映像など地域に関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。」とある。これは、情報を図表などに整理したり、加工したりする学習活動を資料活用の技能として評価することを求めている。そこで、資料を収集し、選択して調べた内容を分布図に表したり、表に整理したりするなどの場面が、技能にかかわる評価場面となる。

一方、「社会的な思考・判断」から「社会的な思考・判断・表現」に変わり、表現が加えられた。地理的分野の評価の「社会的な思考・判断・表現」の観点の趣旨には、「地理的事象から課題を見だし、日本や世界の地域的特色を地域の規模に応じて環境条件や人々の営みなどと関連付けて多面的・多角的に考察し、公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。」とある。これは、「適切に表現している」という内容が加えられており、単に思考・判断させればよいのではなく、基礎的・基本的な知識や技能を活用して、思考・判断をした内容を適切に表現させることを求めている。そこで、この思考・判断・表現を評価するために次の点に留意する。

ア 課題を追究する場面を授業の中に設定する。「なぜ、〇〇だろうか？」という課題を設定すれば、その理由や原因、背景を、これまでの学習で得た知識や技能を活用して解明する活動が必要となる。

イ 言語活動を重視する。課題を追究したり、まとめたりしている場面で、自分の考えを表現する場面を設定する。その際、報告、説明、発表など言語による表現活動を重視し、その内容を評価する必要がある。また、地図に示したり、関連を「ウェビングマップ」のような構造図に示すのも地理的な言語活動と言える。思考したことを地図や図、分類表に示すのは「思考・判断・表現」で評価する。また、これらを利用して説明する活動も評価場面として適宜設定する必要がある。

以上のような点から、単に調べた内容を表現するのではなく、自分で考察した内容を表現させることに留意し、資料活用の技能と社会的な思考・判断・表現の評価について、以下、ヨーロッパ州を例に示す。

(3) 単元の目標

ヨーロッパ州に暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる地理的事象を取り上げ、それを基にEUの発展と地域間格差の主題を設けて、ヨーロッパ州の地域的特色を理解させる。

(4) 小単元の評価規準

| 社会的事象への<br>関心・意欲・態度                                                                        | 社会的な<br>思考・判断・表現                                                                               | 資料活用の技能                                                                                                          | 社会的事象についての<br>知識・理解                                                         |
|--------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|
| ・ヨーロッパ州に暮らす人々の生活の様子を的確に把握できるEUの発展と地域間格差の主題を基に、ヨーロッパ州の地域的特色に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。 | ・ヨーロッパ州の地域的特色を、そこに暮らす人々の生活の様子を的確に把握できるEUの発展と地域間格差の主題を基に多面的・多角的に考察し、その過程や結果をワークシートなどに適切に表現している。 | ・ヨーロッパ州の地域的特色に関する様々な資料をからヨーロッパ州の地域的特色について有用な情報を適切に選択している。<br>・適切に選択した情報を基にヨーロッパ州の地域的特色について読み取ったり、図表などにまとめたりしている。 | ・ヨーロッパ州について、そこに暮らす人々の生活の様子を的確に把握できるEUの発展と地域間格差の主題を基に地域的特色を理解し、その知識を身に付けている。 |

(5) 小単元の指導計画と評価規準と評価する状況

生徒の具体的な状況の評価し、「十分満足できる」状況をA、「おおむね満足できる」状況をB、「努力を要する」状況をCとする。通常、AやCを判断するためには、Bを具体的に想定し、それに照らして判断する方法がとられるが、ここでは、判断の参考とするため、あらかじめ評価するA・Bの状況を想定している。ただし、Bを質的に越える状況がAなので、Aには想定していない状況も出てくることを考慮しておく必要がある。

| 時      | 学習活動・内容                                                                                          | 学習活動に即した評価規準                                                                                              | 評価する状況                                                                                      |
|--------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1      | ○ヨーロッパの外観を地図や主題図から読み取り、ヨーロッパの地域的特色を示す地理的事象を見いだす。<br>・産業、言語、宗教、民族、気候など                            | ◎資料を読み取り地理的事象を見いだそうとしている。<br>【関心・意欲・態度】<br>→指導に生かす評価<br>◎ヨーロッパの地域的特色を示す地理的事象を読み取ったり、図表にまとめたりしている。<br>【技能】 | A 複数の資料を活用して、資料を関連付けて特色を見いだそうとしている。<br>B 一つの資料を活用して、特色を見いだそうとしている。                          |
| 2<br>3 | ○地図帳や図書、インターネットなどの資料を活用して、ヨーロッパの地域的特色を見いだす課題を追究する。<br>・工業地域<br>・EU加盟国の拡大<br>・EU各国の一人当たりの国民総所得の格差 | ◎ヨーロッパの地域的特色を、EUを基に政治的経済的統合の歴史的背景と人々の生活への影響を関連付けて、多面的・多角的に考察している。<br>【思考・判断・表現】                           | A EU統合の理由を、国際関係の中で統合のメリットや地域間格差を東ヨーロッパの地域の様子と関連付けて考察している。<br>B EU統合の理由を、人々の生活のメリットから考察している。 |

|   |                                                                                                      |                                                             |                                                                                                                                                    |
|---|------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 4 | <p>○E Uの地域的特色について追究した過程や結果を地図を描いたり、地図から読み取ったことを文章でまとめる。</p> <p>○E Uの地域的特色について追究した過程や結果を互いに説明し合う。</p> | <p>◎考察した過程や結果を、地図を活用してまとめ、適切に説明している。</p> <p>【思考・判断・表現】②</p> | <p>A ユーロを導入していない国はヨーロッパの東側に多く、イギリスも導入していない。国民総所得が低いことがユーロを導入する障害になっていることをまとめて説明している。</p> <p>B ユーロッパの工業地域とE U加盟国の拡大の地図を関連付けて、西ヨーロッパの優位性を説明している。</p> |
|---|------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

※注 「知識・理解」は事後にペーパーテストの応答結果を基に評価する。

# (6) 授業の流れと評価計画

| 過程   | 時           | 学習活動・内容                                                                                                                                                                            | 学習活動に即した評価規準                                                                                              | ◎おおむね満足できる状況の生徒への指導の手立て<br>○努力を要する状況の生徒への指導の手立て                                                                                                                                    | 評価方法                                             |
|------|-------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------|
| 課題把握 | 1           | <p>1 ユーロッパについて知っていることを発表する。</p> <p>2 ユーロッパは日本よりも面積が小さい国が多く、約40か国から成り立っていることを知り、ヨーロッパの多様性を資料から探す。</p> <p>①地形や気候<br/>②産業（農業や工業）<br/>③民族、宗教<br/>④言語</p>                               | <p>・資料を読み取り、地理的事象を見いだそうとしている。</p> <p>【関心・意欲・態度】</p>                                                       | <p>◎ワークシートの状況を基に、おおむね満足できる生徒には、別の資料を読み取って、関連付けを考えるなど、意欲を高めさせる助言とする。</p> <p>○おおむね満足できる状況にするために、具体的な見方を助言して取り組ませる。</p>                                                               | <p>机間指導し、その場で助言（指導に生かす評価）</p>                    |
|      |             | <p>3 ユーロッパの多様性の様子を資料をもとにまとめる。</p> <p>4 まとめたことを発表し合い、表を完成する。</p>                                                                                                                    | <p>・ヨーロッパの地域的特色を読み取ったり、表にまとめたりしている。</p> <p>【技能】</p>                                                       | <p>◎ワークシートの状況を基に、おおむね満足できる生徒には、調べた内容を整理した表から、ヨーロッパの共通性や多様性を資料と関連付けて見いだしてまとめるように助言をする。</p>                                                                                          | <p>提出したワークシート（①）を授業後に評価</p>                      |
| 課題追究 | 2<br>～<br>3 | <p>1 課題を設定し追究する</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>なぜ、これほど多様なヨーロッパが一つになろうとしているのだろうか？<br/>問題点はないのだろうか？</p> </div> <p>2 E Uの組織の特色を調べる。</p> |                                                                                                           |                                                                                                                                                                                    | <p>観察や机間指導</p>                                   |
|      |             | <p>3 E Uが一つにまとまる理由を資料から考える。</p> <p>4 E U統合を進めるために解決しなければならない課題を資料から考える。</p>                                                                                                        | <p>◎ヨーロッパの地域的特色について、E Uを基に政治的・経済的統合の歴史的背景と人々の生活への影響を関連付けて、統合の理由や問題点を多面的・多角的に考察している。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> | <p>◎国民総所得の格差の資料から東西ヨーロッパの格差に気付き、おおむね満足できる状況の生徒には、産業や労働者の移動に伴う課題を考えるように助言する。</p> <p>○おおむね満足できる状況にするために、過去の戦争の反省から平和を目指していることや工業でアメリカや中国に対抗することなどの理由を資料から考えるように助言する。</p>             | <p>地図・ワークシートを授業後に評価</p>                          |
| 整理   | 4           | <p>1 E Uの地域的特色について追究した過程や結果を、地図を活用してまとめる。</p> <p>2 まとめた結果を小グループ内で説明する。</p> <p>3 解決すべき課題についての自分の考えを発表し、話し合いを行う。</p> <p>4 調査のまとめを記入する。</p>                                           | <p>◎考察した過程や結果を、地図を活用してまとめ、適切に説明している。</p> <p>【思考・判断・表現】</p>                                                | <p>◎東ヨーロッパとロシアの経済的なつながりを読み取り、おおむね満足できる状況の生徒には、E U全体とロシアの関係から課題の解決策についての自分の考えを発表したり、まとめたりするように助言する。</p> <p>○おおむね満足できる状況にするために、ユーロの使用状況から各国の経済状況の格差の課題（アイルランドの例）や改善策を考えるように助言する。</p> | <p>観察や机間指導</p> <p>地図・ワークシート・発表原稿の記入内容を授業後に評価</p> |

## (7) 評価の実例

### ア ワークシートによる技能の評価

国々の様子、民族と宗教、産業の様子などの様々な資料から、学習に役立つ資料を選択し、多様な地域であることを適切に読み取り記述することができているかを評価することが大切である。

#### 「十分満足できる」状況と判断する理由

本事例の生徒はヨーロッパの国々の面積に注目し、日本と比較して面積が小さい国が多いことを読み取っている。また、気候と農業の関連を地図から読み取り、ヨーロッパの多様性を読み取っている。さらに、友達の発表した内容なども照らし合わせながら、大まかに東西ヨーロッパの様子を図や文章で表現し、具体的に調べた内容を整理することができている。

### イ ワークシートによる思考・判断・表現の評価

思考・判断・表現をワークシートから判断するには、「なぜ、EUは一つにまとまろうとしているのだろうか？」という課題を設定する。そうすれば、単に資料から読み取った内容をまとめる技能を判断するのではなく、読み取った内容を活用し、その理由や原因、背景を考察（思考・判断）し、その内容を表現することができる。それを表現した内容から評価することが必要である。

#### 「十分満足できる」状況と判断する理由

本事例の生徒は、EUの歴史や加盟によるメリットに着目し情報を集めている。そして、まとめる理由をアメリカや日本や中国との比較や、平和を維持する視点などから考察している。また、まとめでは、一つにまとまっている理由を自分の言葉で適切に表わすことができている。

#### 「おおむね満足できる」状況と判断する理由

本事例の生徒はEUの過去の歴史に特に着目し、戦争を繰り返さないことを中心に、EUとして一つにまとまる理由を説明している。また、アメリカや日本や中国と比較した資料もとあげているが、その資料から読み取った内容をまとめの説明には記入していない。そこで、一つの資料を中心に理由を説明していることから、おおむね満足と判断した。

### ウ 発表原稿による思考・判断・表現の評価

#### 発表原稿の例

ヨーロッパの規模をアメリカ、中国と比較してみると、① 面積でアメリカや中国に対抗でき、人口でアメリカを上回り、国内総生産、輸出額ではアメリカ、中国を上回ることができます。統一の通貨などを用い、世界最大の経済圏を創り上げることで、EUの力を最大限に発揮することができます。もちろん、西ヨーロッパと東ヨーロッパの格差が大きく、今後解消しなければならない課題もありますが、② ユーロを使用する国を増やし、格差を少しでも解消することが必要なのではないかと考えました。

#### 「十分満足できる」状況と判断する理由

発表を通じて、上記の①より資料から読み取った事実をもとに、EUがまとまる理由を自分の考えを基に適切に説明している。また、上記の②より課題の解決策を自分なりに提案することができおり、十分満足と判断した。

### エ 評価の集約

この事例において、関心・意欲・態度の観点については、ある程度長い期間で評価することを意識し、アジア州とヨーロッパ州を合わせて行うことにした。次のアフリカ州では、これまで培った資料を活用する力を見るために、技能の評価を中心に行うなどの工夫をする。なお、知識・理解の評価は定期テストでまとめて評価することとする。このように全ての州の小単元で4観点を評価するのではなく、観点の焦点化などをして観点の配分を考え、世界の諸地域の単元全体を通して記録に残す評価を蓄積する方法を検討することも大切である。

ヨーロッパ州では、主に思考・判断・表現と技能の評価を中心に行う。これまで示した上記の評価方法で観点別評価をし、右の「評価の集約」の例のように集約し、州ごとに焦点化した観点を集計してABCで評価をする。このように蓄積した評価をまとめていくことにより、世界の諸地域としての評価を行っていく。

### 技能の評価に活用したワークシート例

#### (4) ヨーロッパの様子を地図から読み取ろう。

地図 ヨーロッパの国々から読み取れること  
日本より面積が大きい国を着色したり、同緯度・同経度の日本の地図を描いたりする工夫がみられる。



日本より大きい国が少ない。→どうして小さな国が多い？→戦争の歴史がある国々だから？

#### 地図 ヨーロッパの言語

同じ言語を話す国が大体同じ所にまとまっている。その国に近いエリア（アジアなど）の言語が話されている所もある。同じ国でも異なる場合も。

|               | 宗教                  | 国境                         | 気候と農業                           | 工業                                    |
|---------------|---------------------|----------------------------|---------------------------------|---------------------------------------|
| ヨーロッパ全体から見た様子 | それぞれの宗教が同じ所に集まっている。 | 第一次大戦前はオーストリア・ハンガリーの領地が多い。 | 暖かい所の方が農業生産額が高い。寒い所では森林や牧羊がさかん。 | 工業生産額が高い方が酸性雨の被害が大きい。自動車、石油精製、鉄鋼がさかん。 |

### 思考・判断・表現の評価に活用したワークシート例

#### (3) 地図を使って整理してみよう！



EUの加盟国を年代順に着色しEUの拡大をとらえたり、トレーシングペーパーで高速鉄道網を作図し、それを地図に重ね、EUの経済発展の理由をまとめたりできている。

#### 課題について自分が考えた理由を、自分の言葉でまとめてみよう。

ヨーロッパがEUとしてまとまることで、アメリカ合衆国などの大国と競争できる経済力をつけるため。それは上の地図のEUの加盟国の拡大と高速鉄道網の関係から読み取ることができると思う。また、各国が共同で行うことで、便利で効率よくするため。さらに文化の多様性と言語政策から文化交流をさかんにするためなどの理由も考えた。

#### (3) 地図を使って整理してみよう！



EUの加盟国を年代順に着色しEUの拡大をとらえているが、戦争の状況を地図で説明するなどの工夫ができるようアドバイスする必要がある。

#### 課題について自分が考えた理由を、自分の言葉でまとめてみよう。

第一次、第二次世界大戦が、人々や国全体に大きな影響を与えたため、このまま争いをしていたらもつとダメになってしまうとヨーロッパに思わせたから。そしてヨーロッパの多くの国をまとめ争いを起こさず、資源も多く豊かな国になるためにまとまろうとしている。

### ある生徒の「評価の集約」の例

|           | 関心       | 思考 | 技能 | 知識 |
|-----------|----------|----|----|----|
| アジア州 集約   | A        |    |    | B  |
| 1 ヨーロッパ概観 | 12単元評価を通 |    | B  |    |
| 2～3 調査    |          | B  |    |    |
| 4 まとめ発表   |          | A  |    |    |
| ヨーロッパ州 集約 | A        | A  | B  | B  |
| アフリカ州 集約  |          |    | A  | B  |

定期テストから

## ＜歴史的分野＞ 内容(5) 近代の日本と世界

生徒作品や自己評価に視点を当てた事例

(1) 単元名 立憲国家の成立と条約改正

(2) 本資料作成の視点（生徒作品を活用した評価及び自己評価能力の育成を目指す自己評価カード）

本単元は、近代の前半を扱う。ここでは、「埼玉県中学校教育課程編成要領」（平成21年3月）の内容構成に従い、本単元を2年生の歴史学習の最後に当てた。指導計画には、多様な学習活動を通して、近代という時代を多面的・多角的にとらえさせ、生徒の思考や判断を促し、既習の知識を活用して自分の言葉で適切に表現させる活動を随所に入れた。本単元の学習は、既習事項をフィードバックさせながら表現させる活動を細かく繰り返す構成として、2年生としての歴史学習をまとめる位置付けである。また、3年生で「近代」の学習のまとめとして「時代を大観し、特色をとらえる学習」を行うことになるが、その学習への系統化を図っている。

(3) 単元の目標

自由民権運動、大日本帝国憲法の制定、日清・日露戦争、条約改正などを通して、立憲制の国家が成立して議会政治が始まるとともに、我が国の国際的地位が向上したことを理解させる。

(4) 単元の評価規準

| 社会的事象への関心・意欲・態度                                              | 社会的な思考・判断・表現                                                              | 資料活用・技能                                                                   | 社会的事象についての知識・理解                                                       |
|--------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|
| 近代の歴史的事象に対する関心を高め、この時代に活躍した人物についてインターネットや文献で調べ、意欲的に追究しようとする。 | 日本の国際的地位の向上の過程を、立憲国家の成立から条約改正までの歴史的事象についてその経過や因果関係を多面的・多角的に考察し、適切に表現している。 | 立憲国家の成立や条約改正などに関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、新聞形式のレポートを作成したり、年表などにまとめたりしている。 | 立憲国家の成立から日清・日露戦争を経て条約改正に至るまでの過程の中で、我が国の国際的地位が向上したことを理解し、その知識を身に付けている。 |

(5) 単元の指導計画と評価規準

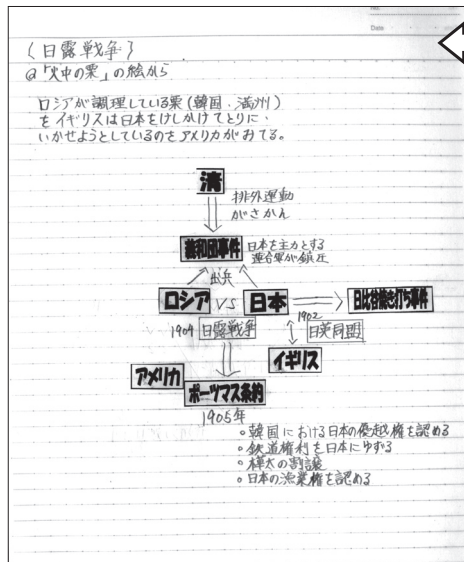
| 時 | 学習活動・内容                                                                                                                        | 学習活動に即した評価規準                                                                          | 評価方法                |
|---|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|---------------------|
| 1 | 専制政治に対する人々の不満<br>自由民権運動の始まりやその高まりの様子を、民権運動を抑えようとする政府の動きとともにワークシートにまとめる。<br><div>我が国の国際的な地位がどのように変化していったのか、内政面と外交面からとらえよう</div> | ・新政府の専制政治への不満から自由民権運動が始まったことや、秩父事件を始めとする民権運動の高まりとそれを抑えようとする政府の動きを対比しながらとらえている。【知識・理解】 | 発言内容<br>ワークシート      |
| 2 | 立憲国家の成立<br>政党の結成や憲法制定の過程を整理するとともに、立憲国家の成立までに活躍した人物についてインターネットや文献で調べ、わかりやすく新聞にまとめる。                                             | ・この時代に活躍した人物についてインターネットや文献で意欲的に調べている。【関・意・態】<br>・調べた内容をわかりやすく新聞にまとめている。【技能】           | 発言内容観察<br>新聞形式のレポート |
| 3 | 欧米列強の侵略<br>アフリカやアジアにおける欧米諸国の植民地獲得競争を地図で確認し、帝国主義の利害が対立する東アジアの情勢を理解する。                                                           | ・帝国主義が席卷する中の東アジアの情勢を理解している。【知識・理解】                                                    | 発言内容観察              |
| 4 | 条約の改正<br>岩倉使節団から関税自主権の回復に至る過程について井上、陸奥、小村それぞれの外務大臣の外交の努力と国際情勢とを関連させながら年表形式でまとめる。                                               | ・半世紀にわたる人々の努力を国際情勢と関連させながらまとめている。【技能】                                                 | 観察<br>ワークシート        |
| 5 | 日清戦争<br>日清戦争の原因や結果を、「日本」「清」「ロシア」「朝鮮」「甲午農民戦争」「下関条約」「三国干渉」の七つのキーワードのパーツを使って図式化・構造化しながらノートにまとめる。                                  | ・日清戦争の原因や結果を、戦争前後の国際情勢から分析・考察し、歴史的事象を適切に図式化・構造化しながらノートにまとめている。【思考・判断・表現】              | 発言内容<br>ノート         |
| 6 | 日露戦争<br>日露戦争の原因や結果を、「日本」「清」「ロシア」「イギリス」「アメリカ」「義和団事件」「ポーツマス条約」「日比谷焼き打ち事件」の八つのキーワードのパーツを使って図式化・構造化しながらノートにまとめる。                   | ・日露戦争の原因や結果を、戦争前後の国際情勢から分析・考察し、歴史的事象を適切に図式化・構造化しながらノートにまとめている。【思考・判断・表現】              | 発言内容<br>ノート         |
| 7 | 戦後のアジア情勢<br>韓国の植民地化に至るまでの様子を、日清・日露戦争の経過や下関・ポーツマス条約の内容と関連させながら整理する。                                                             | ・韓国の植民地化のあらましを、日清・日露戦争と関連させながら理解している。【知識・理解】                                          | 発言内容<br>観察          |

生徒作品例1

生徒作品例2



### ③「日露戦争」のノート



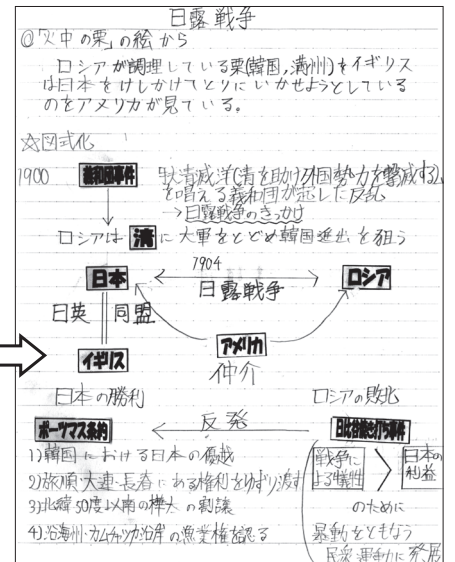
「おおむね満足できる」状況と判断した理由

③のノートは、戦争の原因となる国際情勢と戦争の結果は条件どおり図に表しているが、日比谷焼き打ち事件が日本で起こったという所に着目しただけで、ポーツマス条約との因果関係が漏れている。

「十分満足できる」状況と判断した理由

④のノートは、原因、結果、因果関係などについて、各パーツを用いて条件どおり図式化できている。さらに、日比谷焼き打ち事件の説明など影響についても図示する試みがみられる。

### ④「日露戦争」のノート



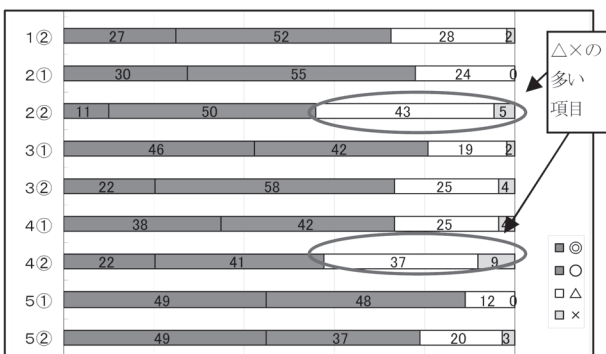
ウ 自己評価能力の育成を目指した取組例

生徒作品例3 単元シラバスの要素を加えた自己評価カード (一部抜粋)

#### 「立憲国家の成立と条約改正」自己評価カード

|   | 学習内容・学習目標                   | 取組や達成度のチェック項目                                                | 評価 | 評価の理由など                                                            | 先生から                                  |
|---|-----------------------------|--------------------------------------------------------------|----|--------------------------------------------------------------------|---------------------------------------|
| 1 | 新政府の専制政治への不満から自由民権運動が始まったこと | ①新政府の専制政治への不満から自由民権運動が始まったことは理解できましたか。                       | ○  | 自由民権運動の始まりなどはノートにちゃんと書けるようになった。しかし、政府の動きと民権運動の動きはあまりよく分かっていない。     | 民権運動と政府の対応と増補プリントを確認しよう。              |
| 2 | 立憲国家の成立                     | ①政党の結成や憲法制定の過程や憲法の特徴を理解することはできましたか。                          | △  | 大日本帝国憲法の特徴はよく分かったが、立憲国家の概念はよく分かっていない。                              | 天皇主権、国権の統一と責任の所在、議院政治の仕組みなどについて確認しよう。 |
| 3 | 欧米列強の侵略                     | ①欧米諸国の植民地獲得競争の様子を地図で確認しながらとらえることはできましたか。                     | ○  | 植民地獲得競争の地図はよく分かったが、欧米列強の勢力範囲はよく分かっていない。                            | 地図を確認しよう。このあたりは、自分の力で理解しよう。           |
| 4 | 条約の改正                       | ①条約改正に至る過程を年表や資料を通して意欲的に調べ、人々の努力や国際情勢と関連させながらまとめることができましたか。  | ○  | 条約改正に至るまでの経緯はよく分かったが、人々の努力や国際情勢と関連させながらまとめることはできていない。              | 失敗をくり返さず、自分から努力しよう。自分から調べよう。          |
| 5 | 日清戦争                        | ①日清戦争の原因や結果を、戦争前後の国際情勢から分析し、それぞれの歴史的事象を図式化・構造化しながらまとめ、考察しよう。 | ○  | 日清戦争の原因や結果はよく分かったが、戦争前後の国際情勢から分析し、それぞれの歴史的事象を図式化・構造化しながらまとめ、考察しよう。 | 図式化すると、頭の中も整理できる。自信を持って取り組もう。         |
| 6 | 日露戦争                        | ①日露戦争の原因や結果を、戦争前後の国際情勢から分析し、それぞれの歴史的事象を図式化・構造化しながらまとめ、考察しよう。 | ○  | 日露戦争の原因や結果はよく分かったが、戦争前後の国際情勢から分析し、それぞれの歴史的事象を図式化・構造化しながらまとめ、考察しよう。 | 図式化すると、頭の中も整理できる。自信を持って取り組もう。         |

#### 自己評価カードの集計結果から (一部抜粋)



を心がけ、必要に応じて補習なども準備する。よくできている点は称賛した上で、次の課題を与えるなど意欲を喚起できるよう工夫する。

さらに、カードを集計し、その結果 (左図) を生徒に示すことで、個々の生徒の理解度や達成度を相対的にとらえさせることも考えられる。△や×の多かった項目については、補充プリントを作って再確認させたり、次時の授業で補足説明を行ったり、指導計画に朱書きして次年度への授業改善へとつなげたりなど、短期的、長期的なPDCAサイクルでフィードバックさせ、活用することが考えられる。ぜひ各学校で工夫されたい。

(1) 小单元名 政府の財政

(2) 本資料作成の視点（指導の手立てに視点を当てた授業の展開）

平成22年3月の中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会の「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」における「小・中学校における学習評価の現状と課題」で、以下のような報告がなされた。

- 平成21年の調査においては、平成15年の調査に比べ、「児童生徒の学力などの伸びがよく分かる」と感じている小・中学校の教師が約33%から約72%へ、「児童生徒一人一人の状況に目を向けるようになる」と感じている小・中学校の教師が約64%から約84%へ増加している。現在の学習評価は、小・中学校を中心に教師に定着してきていると考えられる。
- 一方で、「学習状況の評価の資料の収集・分析に負担を感じる」小・中学校の教師は約63%に達するとともに、「学習評価を授業改善や個に応じた指導の充実につなげられている」と感じていない教師が約29%いる。現在の学習評価については、負担感や授業改善に関して課題があると考えられる。

そこで、本資料では、上記下線部の課題に焦点を当て、1単位時間の授業における評価の場面で事例を示す。そして、生徒の反応が顕著に表れ、加えてどの生徒からも得られる評価の場面を設定し、「記録に残す評価」としてどのような指導の手立てをとるかを具体的に記した。また、設定した評価の場面において評価規準を具体化した生徒の姿を想定しておくことで、「指導に生かす評価」を有効に活用し、個に応じた指導の充実につなげられるようにする。

(3) 小单元の目標

- 国民生活や福祉の向上を実現するために、国や地方公共団体が果たしている役割について考えさせる。
- 財源の確保と配分という観点から財政の役割について考えさせる。
- 租税の意義と役割について考えさせるとともに納税の義務を理解させる。

(4) 小单元の評価規準 省略

(5) 小单元の計画（5時間扱い） 概略

| 時           | 主な学習活動・内容                                                                                                          | 評価の観点                    |
|-------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------|
| 1           | ○財政が果たす役割と家計や企業との結び付きについて、政府の財政政策や日本銀行の金融政策などからつかむ。<br>・景気変動 ・財政政策 ・金融政策 ・インフレとデフレ                                 | 【関心・意欲・態度】<br>【知識・理解】    |
| 2           | ○歳入と歳出について、財務省のホームページなどから現状をつかむ。<br>・租税収入 ・公債 ・財政投融资 ・財源の確保と配分 ・財政赤字                                               | 【技能】                     |
| 3<br>・<br>4 | ○租税に関する統計資料等を用いて、税の仕組みと役割について調べ、納税者としての国民が果たすべき義務について考える。<br>・税金のしくみと種類（国税と地方税、直接税と間接税） ・納税の義務<br>・租税と福祉、社会保障、社会資本 | 【思考・判断・表現】<br>【知識・理解】    |
| 5<br>本<br>時 | ○景気を回復させる政策を発表し合い、効果的と思われるものについて、対立と合意、効率と公正などの視点から考える。<br>・不景気の具体的状況 ・景気回復の方策 ・国民生活の変化                            | 【関心・意欲・態度】<br>【思考・判断・表現】 |

(6) 本時の指導と評価規準及び指導の手立て

ア 本時の目標

景気を回復させるためにどのような財政政策を行うことがよいか、対立と合意、効率と公正などの視点から考え、家計・企業・政府にどのような効果が現れるかを予想する。

イ 本時の評価規準

- ・ 景気回復を図るための国や地方公共団体の財政政策とその効果を意欲的に追究し、とらえようとしている。（関心・意欲・態度）
- ・ 景気を回復させる方策とその効果を対立と合意、効率と公正などの視点から多面的・多角的に考えその過程や結果を適切に表現している。（思考・判断・表現）

ウ 本時の展開

| 過程  | 学習活動・内容                                                                                                                                                                                                                                                   | ・指導上の留意点                                                                        | 【評】 評価                                                                                                                                                                                                                        | 資料等               |
|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|
| 導入  | 1 現在の日本の景気の状態を新聞記事・テレビニュースのVTRから確認する。                                                                                                                                                                                                                     | ・大学生の就職難や身近な事例（家族の会話など）に着目させる。                                                  |                                                                                                                                                                                                                               | 新聞記事<br>VTR       |
| 展開  | <div>景気を回復させるにはどのような財政政策がより効果的か考えよう</div>                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                               |                   |
|     | 2 景気が悪いとはどのような状況なのかを確認し、景気が良い状態はそれがどのようなになるのかを発表する。<br>・給料が上がる ・商品がよく売れる<br>・工場の生産が増える ・失業者が減る など                                                                                                                                                         | ・思い浮かぶ様々な状態を発表させることで、意見を言いやすい雰囲気をつくり、次のグループ活動が活発に進むよう留意する。                      |                                                                                                                                                                                                                               | ノート               |
|     | 3 国や地方公共団体はどのような政策で景気回復を図ろうとするかをノートに書き、グループ内で発表し合う。<br>・「減税」⇒家計からの支出が減る<br>・「公共事業」⇒仕事が増える<br>・「給付金」⇒家計の収入が増える など                                                                                                                                          | ・既習事項を生かして考えさせる。<br>・その政策を実施すると、どのような変化が現れるかを予想するように指示を出し、より効果の上がる政策を考えさせやすくする。 |                                                                                                                                                                                                                               | ノート<br>教科書<br>資料集 |
| 開   | 4 景気を回復させるための様々な政策の中からより効果的と思われるものを選び、どのような効果が現れるかを予想して、ウェブ図にまとめ、グループごとに発表する。（グループ学習）<br><br>・減税－家計の支出減－消費拡大<br>└ 政府の税収減－国債で補う<br><br>・公共事業－企業の雇用拡大－給料アップ<br>└ 政府の歳出増－国債発行増－福祉後退<br><br>・給付金－家計の収入増－消費拡大<br>└ 貯蓄－効果なし<br><br>・公立高授業料無償化－家計の支出減－消費<br>└ 政府 | ・時間によっては教師が選んだいくつかのグループの発表にとどめる。                                                | <div>【評】 景気回復を図るための国や地方公共団体の財政政策とその効果を意欲的に追究し、とらえようとしている。 【関心・意欲・態度】<br/>【指導に生かす評価】<br/>＜評価方法＞ 机間指導による活動の観察<br/>＜Bの生徒への手立て＞<br/>○家計・企業・政府の三者間の対立と合意や効率と公正を明確にさせる。<br/>＜Cの生徒への手立て＞<br/>○これまで学んだ政策の確認をさせ、最も身近なところから考えさせる。</div> | 短冊（付箋紙）           |
|     | 5 任意の方策を実施した場合に、どのようなことが派生していくのかを対立と合意、効率と公正などの視点から多面的・多角的に考え、ノートにまとめる。<br><br>・減税をした場合、家計や企業の立場では支出減となり、経済効果が期待できるが、政府は税収減となり、財源確保に課題が残る。<br><br>・子ども手当などの定額給付金は、低所得世帯にはありがたいが、高所得世帯には大きな効果が期待できない。                                                      |                                                                                 | <div>【評】 景気を回復させる方策とその効果を対立と合意、効率と公正などの視点から多面的・多角的に考えその過程や結果を適切に表現している。 【思考・判断・表現】<br/>【記録に残す評価】<br/>＜評価方法＞ 提出したノートの分析<br/>＜Bの生徒への手立て＞<br/>○財政政策の組み合わせを考えさせる。<br/>＜Cの生徒への手立て＞<br/>○ウェブ図からの読み取り方を補習する。</div>                   |                   |
|     | 6 ウェブ図にまとめた活動や他班の発表をもとに景気回復の方策の効果について自分の考えをノートに書き発表する。                                                                                                                                                                                                    |                                                                                 | 単元の中で重点的に思考・判断・表現の観点を記録に残す場面であり、評価簿に記録する。<br><br>・班活動前と後で自分の考えがどう変わったかを明確にさせる。                                                                                                                                                |                   |
| まとめ | 7 景気を回復させるための政策は、いくつか実施されているが、家計・企業・政府のそれぞれが関連し合っていることに気付く。                                                                                                                                                                                               | ・財政政策の記事を紹介し、現在実施されている内容を知らせ、その成果を自分の考えた方策の効果と照らし合わせて、対立と合意、効率と公正の視点から考えさせる。    |                                                                                                                                                                                                                               | ニュースの記事           |

## エ 評価の実際

本時における思考・判断・表現の評価規準「景気を回復させる方策とその効果を対立と合意、効率と公正などの視点から多面的・多角的に考えその過程や結果を適切に表現している」状態が「おおむね満足できる」状況（B）となる。この状況と生徒の記述したノートの内容を照らして評価する。

### <「おおむね満足できる」状況のノートの例①>

#### 「おおむね満足できる」状況と判断する理由

本時の評価規準と照らして、景気を回復させるための方策の効果を、家計へのプラス面と政府へのマイナス面を対立させて考察している。また、その思考の過程も適切に表現されている。さらに、結論では効率的な財政政策にも考えが及びつつあることから、「おおむね満足できる」状況と判断した。

ぼくは所得税や法人税の減税が1番よいと思っていました。それは個人も会社も喜ぶし、効果があると思ったからです。でも、税金は国の大切な収入で、それが減ると、今まで国がやっていた事業を続けることや新しい事業ができなくなります。

他の班の人たちの考えの中にもよいと感じたものもありましたが、マイナスの面もあります。だから、いくつかの財政政策を組み合わせると良いのではないかと思います。

家計と政府の視点で対立する状況を、両面から考察している。

政府へのマイナス面の考察で、「税収減」⇒「国民へのサービスの低下」という思考の過程を適切に表現している。

より効率的な方策を考える一端に気付いている。

### <「おおむね満足できる」状況（B）の生徒への指導の手立ての例>

- 企業の視点から、減税はどのような効果を及ぼすのかを考えさせる。
- 「国がやっていたこと」を具体的に表現させる。
- 「財政政策を組み合わせる」具体的な例とその効果を予想させる。

### <「努力を要する」状況（C）の生徒への指導の手立ての例>

- ウェブ図の作成活動を通してわかったことや感じたことを書き出させる。
- 家計・企業・政府へのそれぞれの効果をウェブ図で見比べて、相反することがないかに着目させる。

### <「おおむね満足できる」状況のノートの例②>

#### 「おおむね満足できる」状況と判断する理由

本時の評価規準と照らして、景気を回復させるための方策の効果で、家計へのプラス面を自分の生活へと引き寄せている。また、政府の財源確保の困難さに気づき、家計のプラス面と対立させている。さらに、財源を確保する方法と財源の配分を対立と公正の視点で捉えていることから、「おおむね満足できる」状況と判断した。

給付金、公立高校の授業料無償化、中学生までの医療費無償化などを組み合わせて行うことが効果的だと思います。家計の収入が増えて、支出が減ることで家計の安定を実感できるからです。

しかし、そのための財源をどうすればよいのかを考えることが難しいということが友達の発表から分かりました。

特に国債の発行に頼ると、どんどん国の借金が増え、福祉などへの支出が不十分になるかもしれないと感じました。

表面的なとらえ方でなく、自分の状況を想像して表現している。

給付金・授業料無償化と財源確保が対立することに気付いている。

国債発行による累積赤字が、国民福祉の弊害につながる可能性があることに気付いており、その結論に至る過程も適切に表現されている。

### <「おおむね満足できる」状況（B）の生徒への指導の手立ての例>

- 財源を確保する方法は、国債以外にないかを考えさせる。
- 「福祉などが不十分になる」ことを避けるためには、どんな方策がよいかを考えさせる。

### <「努力を要する」状況（C）の生徒への指導の手立ての例>

- 「もし、自分の手元に国からの給付金（現金）があったら」という自分の視点から考えさせる。
- 公立高校の授業料無償化は、授業料が無料になるのではなく、実際には国が支援していることに気付かせる。

4 学期末・学年末の評価に向けて

(1) 評価方法の工夫

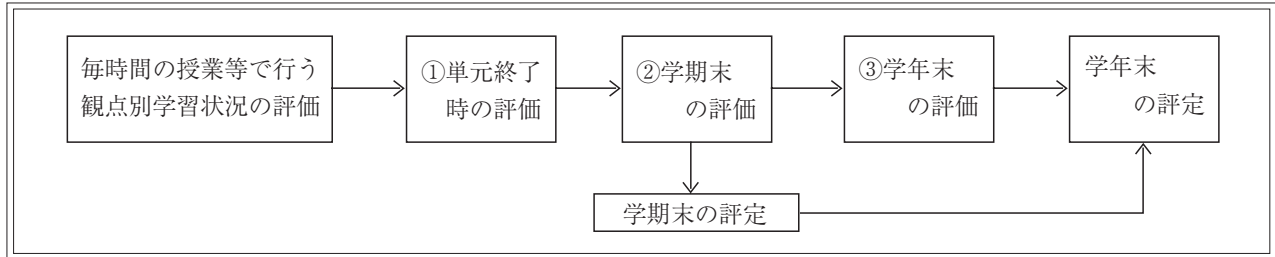
指導計画では、単元目標や内容に合った学習活動が計画され、評価計画には、それに適した評価の場面と方法が位置付けられていなくてはならない。実際に学習評価をする際には、ワークシートやノート、自己評価カードへの記述、ペーパーテスト、行動の観察、面接など、多様な評価方法の中から、社会科の授業のある場面における学習の状況を的確に把握できる方法を選択していくことが大切である。

評価方法については、それぞれの方法の特色を生かして取り入れる。ペーパーテストや作品による評価は、学習の結果をとらえることに特に有効であるが、問題解決の過程を評価するには観察をしたり、ワークシートの進捗状況の評価したりと、それぞれの観点にあった評価方法を選択することが望ましい。

| 評価方法        | 具体的な評価例                                 | 特 色 と 留 意 点                                                                                                                     |
|-------------|-----------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ペーパー<br>テスト | ・ 定期テスト<br>・ 単元テスト<br>・ 小テスト等           | ・ 学習の結果を客観的に示すのに有効であるが、「知識・理解」の評価に偏ることなく、他の観点でも評価できるように工夫する必要がある。<br>・ 問題そのものが目標に準拠し、目標を達成したかどうかを計れるものでなければならない。                |
| 質問紙法        | ・ 自己評価カード<br>・ 相互評価カード等                 | ・ 生徒が自己の学習の状況を確認し、次の学習に意欲的に進めるようにするねらいをもって、「関心・意欲・態度」の評価で使われることが多い。<br>・ 生徒が十分な自己評価能力をもっているとは限らないので、評価項目の観点については、よく説明しておく必要がある。 |
| 観 察 法       | ・ 発表活動<br>・ 表現活動<br>・ 話し合い活動等           | ・ 生徒の言動や表情等の観察から座席表や名簿等に記録する。記録に残す評価だけでなく、指導に生かす評価として活用することもできる。<br>・ 記録に残す評価として活用するには、生徒全員を同様に評価することができる場面を設定して観察することが大切である。   |
| 作 品 法       | ・ 研究レポート<br>・ 小論文<br>・ 歴史新聞<br>・ ワークシート | ・ 学習の成果をトータルで評価できる方法であるが、完成に至るまでの学習過程も評価していくとよい。<br>・ 作品に対する評価の観点、規準を明確にしておかないと散漫な評価になりかねない。                                    |

(2) 学期・学年の評価

学習評価は一年間を通して続き、最終的な評価は学期末や学年末に行うが、具体的な評価は短い期間で実施されている。観点別学習状況を総括する時期は、概ね図のように①単元終了時、②学期末、③学年末の三つの時期がある。各時期の観点別評価から評定への流れを提示すると次のようになる。ただし、評価が学期末や学年末に偏ることがないように、評価の時期を工夫したり、学習過程の評価を蓄積して場면을工夫したりすることが必要である。



ア 単元ごとの観点別学習状況の評価の総括例（歴史的分野「立憲国家の成立と条約改正」）※記録に残す評価

| 時     | 学習の内容         | 評価の観点 |       |     |       |
|-------|---------------|-------|-------|-----|-------|
|       |               | 関・意・態 | 思・判・表 | 技 能 | 知識・理解 |
| 1     | 専制政治への不満      |       |       |     | A     |
| 2     | 立憲国家の成立       | A     |       | A   |       |
| 3     | 欧米列強の侵略       |       |       |     | B     |
| 4     | 条約の改正         |       |       | A   |       |
| 5     | 日清戦争          |       | A     |     |       |
| 6     | 日露戦争          |       | B     |     |       |
| 7     | 韓国と中国         |       |       |     | B     |
| 8     | 近代前半の特色をとらえよう | A     | B     |     | A     |
|       |               | Aの数   | 2     | 1   | 2     |
|       |               | Bの数   | 0     | 2   | 0     |
|       |               | Cの数   | 0     | 0   | 0     |
| 単元の評価 |               | A     | B     | A   | A     |

単元ごとの評価については、表のように一つの単元における各観点の複数の具体的な評価を一つにまとめておくことと次の学期末（学年末）の評価、評定もしやすくなる。

同じ観点到A・Bの評価がある場合、通常は数が多い評価にすればよいが、左図の「知識・理解」のようにAとBが同数の場合もある。この場合は、単元のねらいや評価規準と照らして、評価資料である作品やワークシート、小テストなどが、よりAに近いのかBに近いのかを再検討するなどの方法が考えられる。

イ 学期ごとの観点別学習状況の評価の総括例（第2学年3学期）

| 単元の内容          |     | 評価の観点 |       |     |       |
|----------------|-----|-------|-------|-----|-------|
|                |     | 関・意・態 | 思・判・表 | 技 能 | 知識・理解 |
| 生活・文化から見た東北地方  |     | B     | C     | B   | B     |
| 歴史的背景から見た北海道地方 |     | B     | B     | A   | A     |
| 身近な地域          |     | A     | A     | B   | A     |
| 立憲国家の成立と条約改正   |     | A     | B     | A   | A     |
|                | Aの数 | 2     | 1     | 2   | 3     |
|                | Bの数 | 2     | 2     | 2   | 1     |
|                | Cの数 | 0     | 1     | 0   | 0     |
| 3学期末の評価        |     | A     | B     | B   | A     |

学期ごとに行う評価の総括については、前ページの図中①の単元ごとの評価の総括を蓄積して行う。左の例は記号の数が最も多いものをその観点の評価とするという考えで、A・B・Cの数を数えて総括している。

この時、社会的事象への関心・意欲・態度や資料活用の技能の観点のように、Aが2個、Bが2個となり同数の場合があるが、その際の判断の仕方としては、例として次のような方法も考えられる。

例1 各単元のBの評価が、よりAに近いのか、あるいはCに近いのかを分析する。

例2 小単元の指導内容によって、特定の小単元の評価の観点に重み付けをする。（技能の観点については、3学期の学習の中で「身近な地域」の単元を特に重視するなど）

これらは例であり、実際には各学校で総括の方法について事前に職員間の共通理解を図った上で進める。

また、Cと評価した観点については、対象の生徒をそのままにせず、学習方法をアドバイスしたり、補習のプリントや基礎的な問題に繰り返し取り組ませたりして、その単元の中で十分に手立てを講じ、評価を生徒の学力向上に生かすことが大切である。

ウ 評定

学年末の評価については、学年末の観点別学習状況の評価を基に、下図①のようにB・B・A・Aから4という評定を導くことになる。

その学年末の観点別学習状況の評価を導く際には、下図の知識・理解の観点を例に②→で示したように各学期の観点別評価を総括して、B・A・A→Aと導く方法や、③---→で示したように小単元の観点別評価を総括して、A11個・B6個---→Aと導く方法などがある。各学校においては、評価と総括の方法を工夫するとともに、年度当初に職員間の共通理解を徹底し、保護者や生徒に説明しておくことが求められる。

【単元ごとの記録簿を名簿などを利用して整理し、学期末や学年末の総括的评价を行った例】

| 第2学年<br>単元名 |       | 1学期        |          |               |                   |                |                    | 2学期          |                     |                   |                       |            |                   |               | 3学期           |                |       |              | 学年末        |    |
|-------------|-------|------------|----------|---------------|-------------------|----------------|--------------------|--------------|---------------------|-------------------|-----------------------|------------|-------------------|---------------|---------------|----------------|-------|--------------|------------|----|
|             |       | 1          | 2        | 3             | 4                 | 5              | 6                  | 1            | 2                   | 3                 | 4                     | 5          | 6                 | 7             | 1             | 2              | 3     | 4            | 観点別学習状況の評価 | 評定 |
| 生徒名         | 評価の観点 | 自然環境から見た日本 | 人口から見た日本 | 産業・交通の発達と町人文化 | 資源・エネルギーと産業から見た日本 | 地域間の結び付きから見た日本 | 幕府の政治改革と幕府政治の行き詰まり | 自然環境から見た九州地方 | 人口や都市・村落から見た中国・四国地方 | 環境問題や環境保全から見た近畿地方 | 欧米諸国における近代社会の成立とアジア進出 | 産業から見た中部地方 | 他地域との結び付きから見た関東地方 | 明治維新と人々の生活の変化 | 生活・文化から見た東北地方 | 歴史的背景から見た北海道地方 | 身近な地域 | 立憲国家の成立と条約改正 | 3学期末の評価    |    |
|             |       |            |          |               |                   |                |                    |              |                     |                   |                       |            |                   |               |               |                |       |              |            |    |

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |
|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|----|
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | </ |
|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|----|